

経営のちょっとしたヒントに

しんきん協議会連合会

# こんぽす

57号

平成25年1月1日発行

「ものづくりゆめづくり」  
今日の  
一歩  
4つの  
企業物語



プレゼント

明治座へ

ペア50組100名さまご招待

# 4つの企業物語①

# 技術

# 株式会社 メトロール

- ①世界最小「超小形精密位置決めスイッチ」。世界シェア7割を誇る。世界64カ国の企業に一個から発送
- ②社内の全員が同社で働くことに満足し、自分の力をフルに発揮できるよう環境を徹底的に整備。「強い運命共同体」を目指す
- ③事業拡大に伴い4度めの社屋引越し。明るい会議室から見える多摩都市モノレールの高松駅から徒歩2分



自社開発の  
超小形精密位置決めスイッチを  
世界マーケットへ発信



21世紀は中小企業の時代ですよ。インターネットが出てきたこの10年で、何が変わったかという点、情報伝達のスピードが100倍ぐらい速くなった。アナログ時代の巨大なピラミッド型の大企業の組織では、21世紀のビジネスチャンスはつかめないでしょう」

株式会社メトロールの松橋卓司(54歳)社長は明言する。刻々と変わる世界情勢に対応するためには、これまで通りの大企業のフットワークでは、もう間に合わないのだ。「何年もかけて事業計画を立て、工場を建て、モノを出荷し始めたときには、当初のシナリオどおりの値段では売れなくなっているんですからね」

社内で情報共有のための会議をしている間にも、世の中はどんどん変化している。

同社が製作しているのは、コンピュータ制御の工作機械や半導体製造装置に欠かせない精密位置決め用スイッチである。全自動の機械にしても、刃物の位置が決まっていなければスタートできない。使っているうちに狂ってくれば、原点復帰といって、もう一度元に戻さなければならぬ。

「その位置を精密に決めるといのが、僕たちの闘うステージなんですよ」

その精密度とは、いったいどの程度なのかというと、一〇〇〇分の一ミリ、一〇〇〇〇分の一ミリというものだ。

しかも、同社の製品は、悪環境で三〇〇〇万回使っても誤差二〇〇〇分の一ミリの精度を誇る。世界トップシェアを占めている所以である。

平成24年優良企業表彰式

# 日本経済新聞社賞



同社のスイッチは多種多様。ここには約7000点の部品があるが、すべてオリジナル。整然と管理される部品の棚には、番地がついている。「このシステムに落ち着くまでに約3年間かかりました」(松橋社長)。大手自動車メーカーから講師を招いて勉強しながら社員全員で作り上げた



明るく清潔で床暖房を備える工場内。同社が掲げる社訓の一つに「全員満足」がある。「従業員はもちろん、社長や管理職だって、みんなが満足できる会社を作りたい」（松橋社長）。パート従業員は保障面でも優遇。短時間社員という位置づけなので社会保険にも加入。昇給もあるし賞与も支給される

## 技

術には絶対の自信がある。約七〇〇種類の製品を作る。一つひとつの部品すべてに設計図がある。創業者であり、会長の松橋章氏（87歳）が創業の頃から、休むことなく（こつこつ）と設計し続けた同社の宝物だ。

「部品の多くはオーダーメイド。製品のイメージは、リカちゃんやG.I.ジョーの人形、みたいなものですよ。その人形に対して、50種類か60種類の着せ替えがあるんです」

基本的には部品在庫のみで、一個ずつから受注生産。完成品の在庫は持たないのが強みだ。MRPという生産システムの導入で、景気変動や世界情勢の変化にも、即、生産の対応ができる。

また、同社には間接部門が存在しない。開発、製造、販売の直接部門管理者が間接業務の権限を持つことで、時代のスピードに対応してきた。しかも、全員が開発に関わり、製造に関わり、販売に関わっているからこそ、突発的に何か起きたとしても、誰もが自分の問題になるのだ。

「うちには能書きだけ言って実行しない、失敗しない、傷つかないやつは一人もいない。誰もが弾が飛んで来る場所で仕事をしているし、それゆえに成長が早い」

前線と共に闘っているからこそ、運命共同体としての連帯感が自ずと生まれる。

「社長といえども社員からの報告を待つのではない、自ら前線に行つて、身体を張つて、市況の変化を肌身で感じなくちゃダメです」

情報もリアルタイムで発信する。ネットを使った社内向けブログの活用は、世界で活動する全社員及び関連会社の人たちが目を通す。瞬時の情報の共有化が大きな武器だ。

松橋卓司（まつはし たくじ）社長。昭和33年2月、東京・小金井市生まれ。大学卒業後、大手食品メーカーに入社し、営業や新事業開発を手がける。平成4年に親戚に請われて豆腐製造会社に入社。営業部長として業績を拡大後、平成10年、同社に入社。平成21年同社社長に就任、現在に至る



日中英の語学のスペシャリストほか、社員の誰もが一芸を持つ。3か月に一度の社内ビアパーティもたのしみの一つ



テストルームでは、製品を一個ずつチェック。拡大鏡を使った精密検査で、同社の品質を管理



より正確に、より早く、より美しく出荷される各種製品。責任感が強く、忍耐強い日本の女性たちの力が最大限に発揮される



工具の原点確認、起点確認を10000分の1ミリの精度でコントロールするセンサはさまざまなCIVC工作機械に採用されている

「その情報に対して、一人ひとりの社員が自主的にどう動くかが問われるわけです」  
翌日、出社してきたときには、動くべき部門では、早速何らかの手がうたれている。凄まじい勢いで進むグローバル化と市況の変化。特にアジア圏に、巨大な経済圏が出来上がってきた。国内の限られた企業を相手にしていれば業績が上がる時代は終わったのだ。

「世界中にお客さんを持つことができれば、企業は高い自由を得られるでしょう」

ネットの普及がそれを可能にした。現在、インド、中国、台湾に販売拠点を有し、ネットのダイレクト取引で世界60数カ国に顧客を持つ。注文は一個から。決済はクレジットカードによる電子決済である。

「国際宅配便で出せば、一週間以内に世界のどんな場所にもドアトゥドアで製品を届けられる。受注生産なので、完成品の在庫も持たなくてすむ」

さぞベテランの職人たちが組み立てているかと思いきや工場はパート従業員の女性たちに任されている。経験の無い人でも独自に開発された生産治具を使えば組み立てができるようになるのだそうだ。工場内や事務所内には「気づき箱」が置いてあり、「組み立てにくいから、設計を変えてもらえないか？」などと、現場の彼女たちから提案がなされる。翌朝には会議にかけられ、製品設計が変更されることも少なくない。同社では、役職に関係なく誰もが当事者なのだ。日本の中小企業ならではの、きめこまやかさが際立つ。

ものづくりの原点に立てば、世界を相手に戦える。

**しんきんさんへのメッセージ**／「信用金庫さんとは、創業以来のお付き合い。常に前向きな形で応援するというスタンスで、支えていただいています。今後も、地域の運命共同体的な情報共有の場を作る媒体になられたらいいんじゃないかと思いますね」